

パスワード保護共有の無効設定 (Windows11 22H2 以降)

【1】パスワード保護共有の無効設定について

Windows アップデート等の影響で、意図せず「パスワード保護共有」が無効から有効になる場合があります。

パスワード保護共有 有効 : 共有フォルダ等にアクセスする際、ユーザー名とパスワードが求められます

パスワード保護共有 無効 : ユーザー名とパスワードは求められません

クライアント機でどっと原価 NEO シリーズが起動できなくなった場合は、**親機**にて以下の設定をご確認ください。

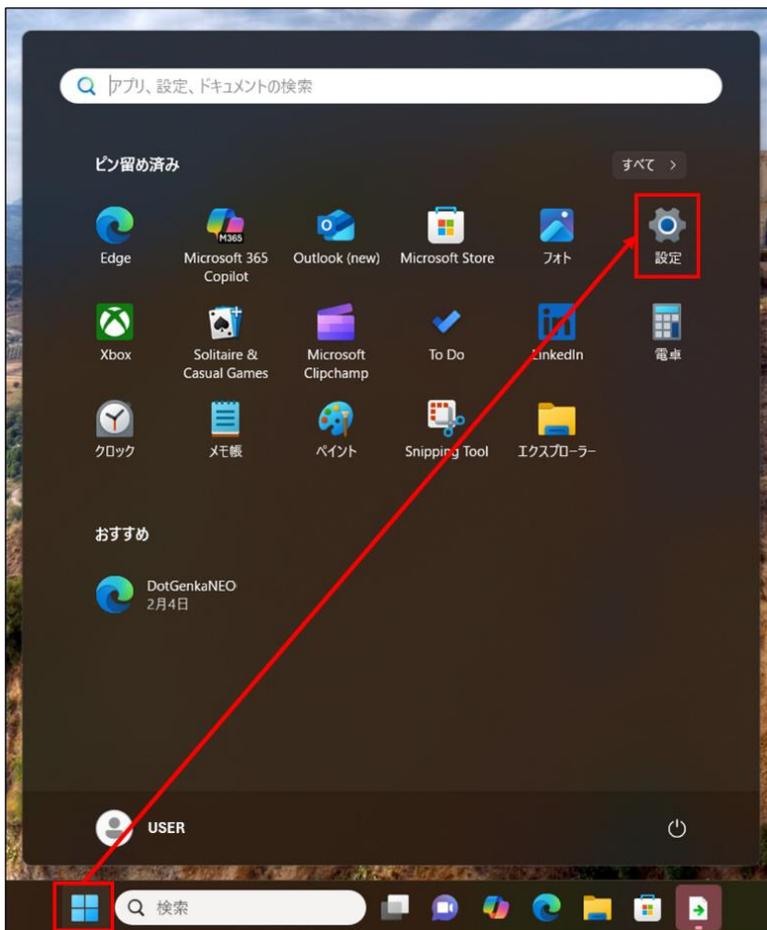
《対象のお客様》

親機が、Windows11 バージョン 22H2 / 23H2 / 24H2 かつ ワークグループ環境

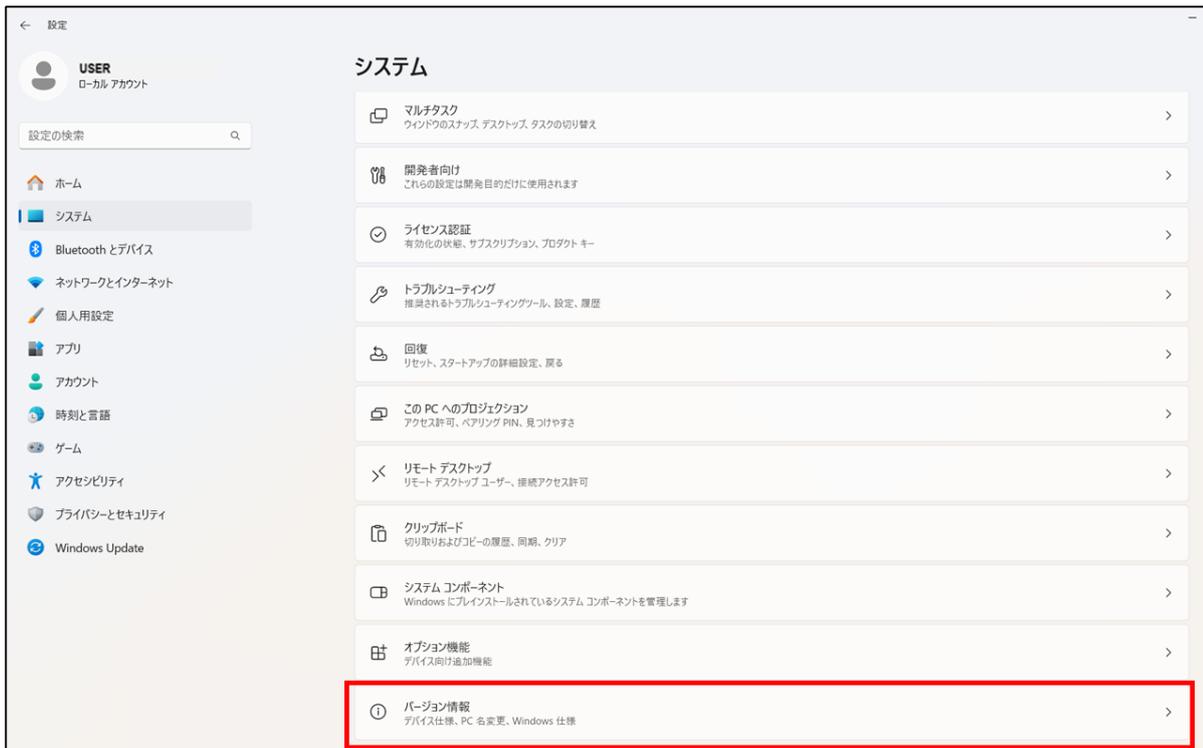
【注意】 パスワード保護共有の設定は、必要に応じて、セキュリティ担当の方と相談の上、変更ください。

【2】動作環境の確認

① スタートボタンから、「設定」をクリックします。



② 「システム」から、「バージョン情報」をクリックします。



③ 「Windows の仕様」の「エディション」と「バージョン」を確認します。

また、「ドメインまたはワークグループ」から、環境がワークグループか、ドメインかを確認します。



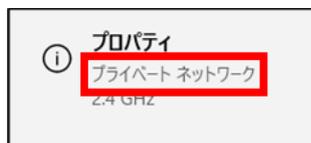
【3】 設定手順

① 「ネットワークとインターネット」から、「ネットワークの詳細設定」をクリックします。



※以下設定は、プロパティが「プライベートネットワーク」の場合の設定方法です。

「パブリックネットワーク」になっている場合は、[【補足】パブリックネットワークの場合](#)をご確認ください。



② 「共有の詳細設定」をクリックします。



- ③ 「プライベートネットワーク」の「ネットワーク検索」及び「ファイルとプリンター共有」が、どちらも『オン』であることを確認し、「すべてのネットワーク」をクリックします。



- ④ 「パスワード保護共有」を「オフ」に切り替えます。設定は以上で完了です。



【補足】パブリックネットワークの場合

① 「プロパティ」をクリックします。



② ネットワークプロファイルの種類を「プライベートネットワーク」に切り替えます。

【3】設定手順①に戻り、パスワード保護共有の設定を行ってください。

